

柏市立柏第七小学校 の実践について

協議の記録

Q1：入学説明会でインクルーシブ教育システムについて説明をしているとのことであるが、保護者の方へ話をした後、反応はいかがでしたか。また、行ってみたいの感想も教えてほしい。そして、在籍の保護者については、インクルーシブ教育システムについてなどの説明を実施しているかも教えてほしい。

A1：柏市では、インクルーシブ教育システムの構築に向けてリーフレットを作っている。在籍、入学予定者の保護者への配布をしている。それを通して、各学校で合理的配慮の申請の仕方等について説明をしている。リーフレット配布後センターに相談に来る保護者はいる。また、各学校の入学説明会で、リーフレットを見ての相談は増えている。柏第七小学校では、入学前相談会を実施している。入学説明会で入学前相談の実施について話したところ相談件数は年々増えている。事前に保護者の不安の解消につながっている。

Q2：規模の大きい特別支援学級を持っておられるようだが、お子さんの様子を教えてください。中学校との連携、接続で現在取り組んでいること、今後やりたいことなどがあれば教えてください。

A2：柏第七小学校では、3クラスの特別支援学級がある。自閉症、肢体不自由等障害種も様々である。どの子も一緒のクラスで朝の会を行っている。授業の中でグループに分かれて学習したり、全体で取り組める学習を行ったりしている。この前は、全体で節分のお面を作成した。中学校への接続については、保護者に働きをかけて1学期中に進学する中学校の特別支援学級の様子を見学してもらっている。さらに2学期には、簡単に体験を行っている。学年全体では、部活動の見学、3学期に学校生活について体験を行っている。

Q3：地域教育支援会議では、具体的にどのような情報交換を行っているのでしょうか。

A3：早期支援の考え方、経過報告、新入生の情報交換、入学前相談会への協力依頼、学校への要望等の内容になっている。メインは、新入生の情報交換で個別支援が必要になる可能性を持っている園児の把握である。

Q4：早期支援の効果を現1年生の実態を踏まえて教えていただきたい。

A4：1年生の実態をつかむことで事前に対応ができる。実際に登園しづりがある園児の入学に際して学校で事前に対応策を準備できた。

Q5：早期支援に取り組んでみて一番良かった点は、どのようなことでしょうか？

A5：一番は、相談会や地域との連絡会議、学校ごっこを通して、入学前の児童の様子について本校の職員が多く情報を得て、準備できたことである。

室長の講評

「小1プロブレム」の言葉のとおり、環境等の変化による戸惑いを少しでも軽減して、小学校へとスムーズに就学するというのは大きな問題となっている。支援の必要な子にとって、本当に切実な課題であり、そのようなことに対して校内支援体制を充実させ、保護者に対していろいろな対応をして、保護者の不安解消につながっているということは大きな成果である。また、これから入学する子供たちだけでなく、今いる小学1年生の子供たちが、こうした取組を通して、成長していくところを明らかにしたということは、本当に必要な取組があって、成果もあるということが、広くわかっていただけたのではないかと思う。

今後もこうした取組を継続的に進めていただくとともに、課題としてあげられていた内容を、校内、また市教育委員会にも入っていただき検討し、柏市だけでなく広く全県に周知していただきたい。